

## アテネオリンピックの組織運営について

森岡 裕策

### 1 はじめに

今回のアテネオリンピックにおいては、金メダル16個を含むメダル獲得数37個（金16、銀9、銅12）、メダル獲得率が3.98%となり、1984年のロサンゼルス大会の32個の獲得メダル数を超え過去最高に達した。

アテネオリンピックでの日本人選手の活躍は、選手自身はもちろんのこと、監督・コーチ及び支援スタッフ、各競技団体などの関係者の日頃からの努力の賜物であることは言うまでもない。

今後、我が国の今回の成績を分析し、さらなる課題を抽出するとともに、この勢いを次回北京オリンピック競技大会以降においても継続していくため、引き続き国際競技力の向上に向けた施策を一層推進する必要がある。

### 2 日本選手団の激励・視察

今回のアテネオリンピック競技大会では、文部科学省から河村文部科学大臣、小野文部科学副大臣、馳文部科学大臣政務官がそれぞれ各競技会場、選手村、ジャパンハウスなどにおいて、日本選手団に対する激励・視察を行った。

河村大臣は、8月13日の開会式をはじめ、卓球男子シングルス、女子バレーボールなどを視察するとともに、柔道女子48kg級谷選手及び男子60kg級野村選手の金メダル獲得の決勝戦を応援した。

又、キューバ共和国のロドリゲススポーツ大臣と会談を行い、キューバの国技ともいえる野球をはじめ、今後の日本・キューバにおけるスポーツ交流を積極的に推進していくこととなった。

小野副大臣は、競泳男子200m平泳ぎ北島選手及び柔道女子78kg級阿武選手の金メダル獲得の決勝戦などを視察するとともに、ギリシア教育・宗教副大臣との会談を行い、両国における教育、科学技術関係の歴史や特色について活発な情報交換を行った。

馳政務官は、陸上競技男子ハンマー投げ室伏選

手、女子レスリング56kg級吉田選手並びに64kg級伊調選手の金メダル獲得の決勝戦を視察するとともに、シンクロナイズドスイミングや野球、ソフトボールなど精力的に激励を行った。

### 3 総理から金メダル1号選手への祝辞

8月14日に行われた柔道女子48kg級谷選手及び男子60kg級野村選手の2名の金メダリストに対して、東京の小泉内閣総理大臣から、アテネ現地の国際放送センター(IBC)の2名にお祝いの電話をいただいた。国内でテレビ観戦をしていた小泉総理は、2名のこれまでの努力と奮闘に対し、最大限の賛辞を送った。

### 4 危機管理体制について

アメリカ同時テロ後初の夏季大会となったアテネ大会には、北大西洋条約機構(NATO)からの公式支援も含め、約1,300億円と5万人を超える人員による大規模な警備を行ったところである。

我が国における危機管理対応については、内閣官房、外務省、文部科学省、警察庁などの関係省庁による連絡会議等を開催し、アテネ現地及び国内における緊急連絡体制を構築するとともに、(財)日本オリンピック委員会(JOC)が設置した危機管理プロジェクトとも連携・協力を図り、関係者間での緊密な情報交換を行った。

### 5 おわりに

本アテネオリンピックにおいて、文部科学省から文部科学大臣をはじめ、副大臣、大臣政務官がスポーツ担当政府関係者として開会式への出席をはじめ、各選手への激励、諸外国のスポーツ担当政府要人との会談、総理大臣からの金メダリストへの祝辞などを企画・立案し、実現できたことにより、我が国におけるスポーツの持つ重要な意義を再認識することが可能になるとともに、今後のスポーツ振興を推進していく上で、大きな力とな



ったと考える。

今後、2008年の北京オリンピックに向けては、特に開催国である中国の大幅な強化が予想されるが、今回のこの勢いを北京オリンピック及びその後のオリンピックにもつなげるため、JOCと一層の連携を図りつつ、国立スポーツ科学センター(JISS)によるサポートを引き続き推進するととも

に、ナショナルトレーニングセンターの整備、JOCや各競技団体が実施する強化合宿や海外遠征など選手強化活動などの充実、ジュニアからの一貫指導システムによる育成・強化に対する支援など、国際競技力の向上に向けた施策の一層の推進を図ることが必要である。